

意図的行為の素朴説明 - Folk Explanations of Intentional Action -

Bertram F. Malle

社会心理学でのテーゼ:

人はすべての行動(意図的でも非意図的でも)を行為者の内的/外的原因を引用して説明する
これでは不十分である。

本章の構成

- ・人が意図的行為を説明するときの仕方について特徴を記述
- ・得られたモデルを帰属理論、最近の発達研究と比較
- ・シミュレーション理論派とセオリー理論派との議論にこのモデルを適用して統合を図る

意図性と3種類の行為説明

自然な行動説明の仕方を調べるにあたって、まず意図性についての素朴概念の分析から。

意図性の素朴概念

行動が意図的だと判断される最小条件

- ある結果への欲求がある
- 行為がその結果をもたらすという信念がある
- その行為を実行しようという意図がある
- 行為を実行するスキルがある
- 行為を実行している間、意図を成就しようという自覚がある

しかしこれではまだ意図的行為の説明の仕方については何もいえない

意図性の構成要素を意図的行為の3つの(人が説明する価値があると思っている)領域に分類 (figure 1)



Figure 1

Domains of explanation (circled) within the folk concept of intentionality.

可能化要因: 行為が意図したように生じることを可能にするもの¹

意図性の素朴概念において唯一必要な可能化要因は行為者のスキル。²

他の可能化要因(努力、根気強さ、機会、障害の排除)は行為が実行されるために必要ではあるが、行為が意図的だと見なされるのには必要でない。

¹ e.g. She hit her free-throws because she had practiced them all week.

² 行為の自覚は実際的な可能化要因ではないので、説明的機能を持たない。ただし、なぜ上手いかなかったのかを説明するときに自覚の欠如が用いられることは可能。

理由: 表象的な心的状態(欲求、信念、価値[valuings])

行為者が意図や意図的行為を推論する過程でこれらを組み合わせる。

意図性の概念からすれば行為が意図的たるための最小の理由は2つ。³

- ・ある結果への欲求
- ・意図された行為がその結果をもたらすという信念

しかし、自然な説明状況では他の理由が言及される(別の結果を回避したい欲求、文脈についての信念、行為それ自体の評価など)

理由の来歴: 理由を持つに至った経緯

意図性の素朴概念が理由の来歴にかかわることは稀だが、ある条件のもとでは来歴が注目される

意図は説明的機能として働くことはまれ。なぜなら意図の命題的内容は行為それ自体だから

自然発生している行動の素朴説明をコーディングした場合にこの3種類の説明に分離される⁴

理由による説明

理由による説明は全事例の80%に上る。

理由は単なる原因ではない。心的状態は推論において以下の2つの特徴をもつからこそ理由である。

2つの本質的特徴

行為者主観性

説明者は行為者の思考過程を再現しようとし、行為者の主観的視点を取る。説明と見なされるのは主観的理由である。

理由による説明の行為者主観性と、行為者が推論を行うという仮定から、説明者は行為者が理由について最低限の自覚はしていると仮定する。

よって自覚を否定する文が付け加わったときは、それは理由ではないと見なされるはず。⁵

Malle, Knobe, O'Laughlin, Pearce, & Nelson (2000)

大学生に行為文と説明文のペアを提示。理由を示す言語マーカーは無し。欲求を除いた。

多数の人に理由による説明だと判定された7ペアを選別。理由の来歴による説明も同様に。

次に、理由による説明7つそれぞれに自覚を否定する文をあわせた。

参加者はその理由による説明に意味があるかどうかを尋ねられた。

77%が意味がないと答えた。理由の来歴の場合は28%。

合理性

説明者は理由と意図された行為の間の合理的つながりを仮定する。

行為者がある意図を形成することが合理的であるように見せる心的状態のみを説明者は引用する。⁶

なぜある理由がその他の理由を含意するのが合理性の仮定から説明される。⁷

説明者は理由を共有したり賛成したりする必要はない。それらの理由があれば意図の形成が合理的であると認めることだけが必要。

³ これら最小の理由はときどき明示的に言及される。

Q. なぜ専攻に心理学を選んだのか？

A. 私は臨床心理学の大学院に行きたい。私は臨床心理学のバックグラウンドとして心理学を専攻するのが正しいと思っている。

⁴ = .72 ~ .88 (Malle, 1998)

⁵ e.g. "Shanna ignored her brother's arguments because they were irrelevant." + "even though she was not aware of the fact that they were irrelevant."

⁶ e.g. She came to the party 'cause she didn't know that her ex was gonna be there.

⁷ e.g. 1) "Anne was driving above the speed because she knew the store before 6 o'clock." --> "and she wanted to get to the store." 2) "Anne was driving above the speed limit because she wanted to get to the store before 6 o'clock." --> "and she thought that only by driving fast could she be there by 6 o'clock."

もし、行為者が合理的であるように見せたいなら、自分の行動を意図的であるように描き、理由で説明するだろう。(Malle et al., 2000)

理由のグラマー

グラマー：理由を区別する概念的、言語的パラメータ。3つのパラメータを考える。

理由のタイプ：欲求、信念、価値

なぜ行為者はもう一人をいじめたのか

彼女は他の子供たちを笑わせたかったから …… 欲求

彼女はその人の眼差しが嫌いだったから …… 価値

彼女はその少年が女らしすぎると思ったから …… 信念

欲求理由：どのような結果が望まれるのかを明確にするもの(行為の goal, aim, end, purpose)

欲求を理由として言及することは、

・行為者には何か足りなくてそれが行為によって得られる

・その欲求が求める価値のあるものだということを行為者が保証している⁸

ということを示す。

価値理由：表象対象についてのポジティブ/ネガティブな感情[affect]を示すもの⁹

絶対的なもの(liking, hating, missing)と相対的なもの(preferring A over B)がある。

価値を理由とすることは、行為自体の内在的な望ましさを示す。(欲求は結果の望ましさを示す)

欲求と同様、対象への評価的態度を行為者に帰属するものだが、欲求とは違い、それが明示的で、行為者の足りなさ(欠乏性)[deficiency]を示さない。

信念理由：行為、結果、それらの因果関係、関係する諸事情についての行為者の知識、直感、評定

信念は現実を表象するのが目的なので、それ自体では行為を発動させるものではない。

しかし求める価値のある結果とそのための手段としての行為を選択することにおいて信念は必須である。

これらは実際どれくらい使われるのか？

行動の説明を自由回答するという調査をしたところ、50%が欲求、10%が価値、40%が信念であった。

自分自身の行為を説明するときは合理的に見せるために信念理由を使う(Malle, 2000)

行為者-観察者の差異が見られた：観察者は行為者よりも欲求理由を用いることが多く、信念理由を用いることが少ない(Malle, Knobe, Nelson, & Stevens, in-prep.)

心的状態マーカー

心的状態の主観性を示す言語マーカー (she wanted, she thought, she likes) の有無でどう異なるか

信念の場合

マークを付けなければその心的状態としての性質を控えめにする。

マークされたときはそれが行為者の信念で必ずしも共有する必要はないことを強調する。¹⁰

欲求の場合

マークしてもしなくても理由は主観的であることを示す。

しかしマークされたときは行為者の欠乏性[deficiency]¹¹や自己中心性[self-centeredness]¹²を強調する。

⁸ e.g. “Why did she turn up the volume?” “To make her brother mad.”

⁹ e.g. “Why did she go dancing?” “She loves dancing.”

¹⁰ e.g. She’s quitting her job because she thinks her pay such.

¹¹ e.g. He went to the store because he needed more milk.

¹² e.g. We had to stop because he wanted to have some coffee.

理由の内容

内容とは行為者が意図を形成するときに考えていたこと

理由による説明の素朴モデルでは、行為はいくつかの欲求、信念、価値によって説明されるものだが、実際の具体的行為の説明では一つしか要求されない。その内容で詳細を知る。

しかし、理由の内容を心理学的に研究するのは難しい。

例えば、同じ内容の理由でも言語的な表現の仕方が多様である。

これをコーディングし分類するのが難しい上に、できたとしてもその分類が他の心理学的変数について予測力があるかどうかは定かではない。

内容は行為固有的で一般的な心理学的法則性はない、とも考えられる。

だが、分類をあきらめる前に、社会的望ましさの点からコーディングする道がまだ残されている。これは今後の研究課題。

理由の来歴による説明

Anne invited Ben for dinner because she is friendly.

Carey watered the plants because she stayed at home in the morning.

行為者が意図を形成するときに考えていた理由ではない。むしろ理由の来歴。

理由の来歴による説明は文脈や、背景や、理由の起源を説明するので、行為者主観性や合理性のルールに制約されない。

理由の来歴が説明に使われるのはおよそ 20%。

どのような条件の下でこのような説明がされるのか？ O’Laughlin & Malle (2000)の2つと新たに加えた1つを挙げる。

知識

説明者が意図的行動の正確な理由を知らないにもかかわらず説明をしたいときに理由の来歴で説明する。

会話上の関連性

会話における説明は関連性のルールに従う(Grice, 1975 など)

why 質問に対して最も関連し有益な回答は理由であるが、それが面倒であったり明白であったりするとき理由の来歴が用いられる。

- ・ 一連の行動について個々の行為の理由は異なるがそれらの理由を決める来歴は共通している時。¹³ あるいは集団成員の個々の行動理由を一つの来歴で説明するとき。儉約的説明。
- ・ 行為者の理由は明らかであって、それ以上の回答をしようとするとき。

方略的提示

行為者の推論過程を割り引くために方略的に理由の来歴による説明を用いる。(理由、特に信念で説明したとき推論過程が強調される)

可能化要因による説明

意図と行為の間のリンクが完全でない場合に可能化要因による説明が用いられる。¹⁴

この説明はモチベーションではなくパフォーマンスを明確にするもの。よって、

- ・ Why? や What for?ではなく How possible?に答える際にはその出現頻度が4～12倍になる(Malle et al. 2000)
- ・ 質問されている行動が難しいものであった場合、簡単なものである場合の7～8倍の出現頻度になる(McClure & Hilton, 1997)

¹³ e.g. I go to the supermarket almost every day because I have three kids.

¹⁴ e.g. “How come John aced the exam? – He’s a stats whiz.” “Phoebe got all her work done because she had a lot of coffee.”

素朴説明についての競合するモデル

心理学研究において注目を浴びてきた素朴説明についての2つのモデル

- ・社会心理学における帰属理論
- ・発達心理学における心の理論に関する子供の説明の研究

帰属理論

Heider(1958)は意図性の重要性を繰り返し強調したが、意図的な行動と非意図的な行動という素朴概念を指して personal causality と impersonal causality という言葉を用いたため、その後の Jones & Davis(1965) や Kelley(1967)において個人的原因と状況的原因という(誤った)二分に置き換えられてしまった。

帰属理論におけるこの二分はすばらしいが、人は実際には個人的原因か状況的原因かという点で行動について考えてはいない。

非意図的行動について人が用いる因果的説明に関しては、帰属理論はよい理論であるが、意図的行動の説明においては原因帰属モデルでは十分に説明できない。

理由のグラマーを考慮しないため、マーカーがない場合に理由を誤って分類する。¹⁵

説明の発達研究

子供の説明の研究における2つの仮定

- ・子供は3つの別個の説明モデルを発達させる:素朴物理学、素朴生物学、素朴心理学
- ・素朴心理学的説明は人の行動を内的状態、特に信念と欲求で解釈する

この分類が理由による説明と他の説明の仕方との区別をぼやけさせてしまう。

Schult & Wellman(1997)は行為者の心的状態を指すものとして「心理学的説明」というグループの中に欲求や信念だけでなく気分や知識不足なども含めてしまった。意図的行動の理由による説明¹⁶も、非意図的行動の因果的説明¹⁷も一緒にこのグループに分類される。

また、Hickling & Wellman(2000)は理由の内容が生物学的あるいは物理的状態を指すもの¹⁸のいくつかを非心理学的説明に分類しているようである。

Wellman の研究グループは3歳児が心的状態によって行動を説明することを示したが、この子供たちが理由としての心的状態と単なる原因としての心的状態を区別しているかどうかは疑問のまま。おそらくそうではないだろう。

認知過程としての説明活動：理論的推測かシミュレーションか？

説明の形成する認知過程とはどのようなものか？

社会心理学では、(説明の対象に関係なく)すべての説明活動は領域一般の認知メカニズムによるもの、という考えが主流。このようなモデルでは理由による説明とその他の説明の仕方との区別を説明することが難しい。

領域固有的なモデルとして

理論説：行動を説明するとき個々の概念(e.g.意図)と規則(e.g.意図的な行動はいつも目的を持っている)を用い、これらが素朴理論を作り上げる。

シミュレーション説：知覚者は他者の心的状態をシミュレートし、自分の知覚、推論、共感[feeling]能力を予測と説明を作るモデルとして使う。

の2つがある。

4種類の説明の仕方を説明するのにどちらが適しているか？

可能化要因による説明 -

理論説でのみ説明可能。

¹⁵ e.g. She didn't go because her ex was there.

¹⁶ e.g. "Why did Jimmy pour milk in his cereal bowl?" "Because he likes it."

¹⁷ e.g. "Why did Sarah squeeze ketchup on her ice cream?" "Because she didn't know it was ketchup."

¹⁸ e.g. The reason I ask for so much juice is because I get thirsty.

非意図的行動の単なる原因による説明 -

非意図的行動を2種類に分類

生物学的 or 物理的性質の出来事に関するもの：理論説のほうがよい

心理学的性質の出来事に関するもの：シミュレーション説のほうがよい

すべてを説明するには両方が必要。

理由による説明 -

両方が必要

理由の来歴による説明 -

両方が必要

結局、すべてを説明するには両方必要。